

「よろこびの歌」(原作/宮下奈都)

御木元玲 役(主演)

関口秀美



自然と宮下さんの言葉に乗っていけるような演技がしたい

ワテラスでは2018年から年に1度、演劇の公演が開催されている。3回目となる今年の公演「よろこびの歌」には大きな期待が寄せられていたが、新型コロナウイルスの影響で延期に——。「2020年に向けて必死に稽古を重ねてきた」と語る主役の関口秀美さんに今の思いと来年に向けての意気込みをうかがった。

——関口さんは今回、どのような経緯で「よろこびの歌」チームに参加することになったのでしょうか。

ワテラスさんでは、2018年からWHO'S TERRACEプロデュース(淡路エリアマネジメントから依頼を受けてキャラメルボックスの石川寛美さんを中心に結成された演劇ユニット)が主体となって、年に1度公演をやらせていただいています。とは言っても、私は2019年の2回目からの参加です。「よろこびの歌」にも出演している石森美咲さんが1回目から出演していたのですが、彼女とは専門学校のときから切磋琢磨した中で、私はお客さんとして2018年公演を観にきました。翌年の第2回「ヒトミ」という作品では、オーディションをやると思ったので、私も参加させていただき、初めてワテラスさんでの公演に出演することができました。

——そして、今回の「よろこびの歌」では、主演をやることになったのですね。

はい。今回、宮下奈都さん原作の「よろこびの歌」をやると石川寛美さん(WHO'S TERRACE代表)が決めたときに、主人公の御木元玲に私が合うんじゃないか、とお声がけいただきました。そのときは、すごく嬉しかったです。それ以前に、宮下さんの『羊と鋼の森』を読んでいて、その作品世界にとっても魅かれていましたので(書店で最初の1ページを読んで



『よろこびの歌』(宮下奈都 著)
2012年 / 533円+税 /
272ページ / 実業之日本社

すぐに買った作品でした。その後、さっそく原作を読んだのですが、主人公の御木元玲に自分も感じるところがあり、この役をできることに喜びを感じました。

——2020年3月の公演が新型コロナウイルス感染症の影響で、2021年4月に延期となりました。今はどのように捉えていらっしゃるのですか。

もちろん、一生懸命稽古をしてきた分、中止が決まったときは何とも言えない気持ちが入り上げてきました。他のメンバーそれぞれにも色々な想いがあったはずですが、でも、今は前を向いています。今年のために作り上げたものは、来年お見せすることはできないのですが、1年の時間ができ、この作品をより良いものにしていくこともできると思うんです。今も、動画配信といった形でメンバー間での繋がりを絶やさずに活動しており、以前より連帯感はアップしているのではないかな、と。ここで培ったチームワークを活かしていければ、来年にはまた違った良いものを見せられると私自身は感じています。とても楽しみにしています。

——ところで、関口さんは、役者をいつから志すようになったのでしょうか。

小学校高学年のときに、女優さんになりたいと思うようになりました。学校になかなか居場所を感じられないことが大きかったのかもし

れません。家ではどうだったかというと、兄弟もいたのですが、兄弟は兄弟で思春期だったので……(笑) 当時は、「自分をもっと見てほしい」という願望が強かったのだと思います。「自分はこのにいるんだぞ!」って知って欲しかった。また、家で映画やドラマを観るのも好きだったので、思い出に残っているのは「白雪姫」のアレンジバージョンを観たときです。普通のものとは全く違った視点で描かれていたことが新鮮で、そのような表現に心惹かれました。高校生になって大学受験の準備もしたのですが、役者への思いが変わることはなく、親に相談をしてその分野が学べる専門学校に進みました。それまでは演じることに全般に関心があったのですが、その学校は舞台に力を入れていたこともあって、次第に舞台の良さというものを感じていきました。ここまで来るのに様々なことがあったのですが、すごく割愛して言うと、このような感じです(笑)

——最後に、2021年春に上演される「よろこびの歌」の見所を関口さんの言葉で教えてくださいませんか。

原作と同様、主人公の御木元玲が中心にいないながらも、様々な女子高生の悩みや葛藤が作品全体から見えてくると思っています。特に、合唱を通して、登場人物がどのように変わっていくのかはぜひ見てもらいたいポイントです。宮下さんの作品世界を考えた結果、「できるだけ劇っぽ

さを抑えて、ナチュラルに役者たちと登場人物をリンクさせていく」というスタイルがベースになっています。もちろん一方では、青春ものだし、クワイと言われても少しは演劇ならではの良さも出していければ良いなとも思っています。演じている役者の個性が、自然と宮下さんの言葉に乗っていくような形になれば理想ですし、その点は来年の公演でも変わらないと考えています。普段は演劇を観にくいのにな少しハードルを感じてしまうような人にも、ぜひ気軽に来ていただければ光栄です。私もそうできるように、これから頑張っていきたいと思っています。

2021年4月に、新型コロナウイルスの影響で延期となった『よろこびの歌』の公演をワテラスコモンホールで上演予定

『よろこびの歌』(実業之日本社刊)

原作・宮下奈都
脚本・真柴あずき
演出・石川寛美
出演・関口秀美 石森美咲 森下亮 他
※詳細はわってワテラスホームページに掲載されます。

公演情報は以下でも随時更新!

YouTube: WHO'S TERRACE プロデュースチャンネル
Twitter: @whosterrace

主催: WHO'S TERRACE × BOO WHO WOOL
共催: 一般社団法人淡路エリアマネジメント
協力: 安田不動産株式会社

